

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	出来るだけ地域の方がその人らしく生活が出来るようなサービスを行っている。事業所独自の理念を作り上げている。		観光向けの花作り事業参加や、町内会加入など地域と関わる機会を多く持っている。事業所としての理念を持ち暮らしを支えている。
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に理念を共有し理念に沿った介護を心かけている。理念に沿った介護計画を作成している。		全ての職員が理念を述べる事が出来るようにする。朝の引き継ぎの時間に声に出して理念を読み上げる。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホームの見やすい場所に理念を掲げ、またホームページにも掲載し理念の周知を図っている。		時々、家族用の新聞にも載せ家族の方にも理解していただく。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	行事がある時など近所にご案内のパンフレットを配り、訪問していただけるようにしている。また、花の苗をいただいたり、除雪をしていただいたりと良好な関係を築いている。馴染みの入居者のために遊びに来ていただいたりもする。		ご近所に散歩に行かれ、お花をいただいたりと良好な関係となっている。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	観光向けの花作り事業や町内会加入、慰問、ボランティアなどで交流を図っている。行事などにも積極的に出かけている。		催し物や神社の草刈り、お祭りなどに参加している。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者の実態がわからないため、今のところ行動を起こしていない。ホームで慰問がある場合はちらしを作り一緒に楽しんでいただけるよう取り組んでいる。		地域で暮らす高齢者の実態を把握し、ホームに遊びに来ていただいたり、こちらからで向いて話し相手になるなどし取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>全ての職員は自己評価、外部評価を理解し、開かれたグループホームに向けて前向きに取り組んでいる。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>今年で4回行っており、時々写真などを使い趣向を凝らしながらそこでの意見をサービス向上に生かしている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>市の担当者は運営推進会議に出席していただきよいアドバイスを受けつながりをもてるようにしている。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>必要な方にはそれらを利用できるように取り組んでいきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>職場内にて虐待についての勉強会を行っている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>退居される方の退居先を検討し、家族、入居者の方が安心されるよう努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。			
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。			
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に二回家族会を行い要望や意見を話し合える機会を作っている。 一人の入居者に担当するスタッフをつけて家族から細かい生活援助にかんする方針を聞いている。 また、玄関に苦情、要望などを記入して入れるボックスを設置している。		全てのスタッフが家族とコミュニケーションをとれるように努力している。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議を月に一度行い意見の交換をし、気にかかることはその都度提案し運営に反映している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状態、状況に合わせて勤務の調整を行っている。		急な受診、その他の用事に合わせた勤務調整を行っている。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員同士が良い関係作りが出来ているため離職を最小限におさえられている。 新しく入社するスタッフは前々からのスタッフに混じり入居者にそれとなく取捨でいけるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>講習や研修に積極的に参加し、段階に応じてスタッフに指導するようにしている。</p>	<p>他の施設の見学、講習、研修、ホーム内での勉強会を実施していく予定。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム部会、グループホーム連絡協議会で活動をしている。その中で勉強会などを行いサービスの質を向上させている。</p>	<p>相互訪問などして交流を深めている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>仕事上の悩み、行き詰まりなど管理者に聞いてもらえる環境作りは出来ていると思われる。また、スタッフ同士の関係も良いと思われる。</p>	<p>ベンソン法を取り入れている。一人一人の心を大切にしていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>各自が向上心を持って働けるように配慮している。</p>	<p>運営者はほめる言葉を忘れず、また、ほめる場面を作っている。スタッフの立場を明確にするよう検討中。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居に至るまでや、入居初期には本人の困っていることや不安に思っていることを良く聴き、信頼関係を築くように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族とは話しやすい環境を作り、いつでも話せる機会を持ち、信頼関係を築くようにしている。</p>	<p>お互い相談し合い良いケアが出来るようにしている。センター方式のA、Bシートに記載をお願いしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者の状態にあわせたケアプランをたて、家族と相談支援していくようにしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居した日には特にその方との関わる時間を多く持ちホームの雰囲気にならざるよう努めている。		可能な限り入居前にご本人様にホームを見ていただいているが、出来ればご本人が納得されてから入居を決めるようにしたいと考えている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の出来ること、やりたいことを本人と一緒に探し出し無理強いさせず本人のペースで自立した楽しい生活が過ごせるように心がけている。調理や畑仕事などでスタッフと入居者が一緒に作業し、入居者にいろいろと教えていただく場面作りもしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者本人を家族と共に支えていけるような関係を築き、入居者と家族が安心して生活出来るように努力している。出来るだけ家族と情報交換を行い、本人にとって最適な方法で支えていけるように共に協力し合っている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	いつでもホームに来られるよう、開放的な雰囲気を作り本人の状況を報告し、何でも話しやすい状況を作り出し家族とのコミュニケーションを多くとることにより本人と家族がよりよい関係を築いていけるように支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの家を訪問したり本人の希望で自宅や住んでいた家を訪ねることを実施している。		友人や本人の家に気軽に行き来出来ることで、生活の張りが出来また安心することが出来る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者一人一人がお互いを尊重し合いながらも助け合う良い関係が出来ている。一人で孤立しているような場面が見られた際にはさり気なく職員が話しかけ、孤立することがないように手助けをさせていただいている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院のため退去されても、入院先に向く事を心がけ励ましている。ホーム以外で家族と会った時は本人の近況を聞くなどして大切にお付き合いさせていただいている。		なんらかの理由で契約が終了した場合でも、その場で再度申し込みし直す家族もいる。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人から話を伺い本人の希望や意向を把握し家族とも協力し合い、本人の希望を尊重するように努めている。買い物希望される入居者に対しては職員が同行し買い物に行くようにしている。		家に帰りたい入居者には度々住んでいた家を訪れるなど入居者の気持ちをくみ取れるように努力したい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人及び家族から話を伺い今までの生活習慣、生活環境、各サービス利用の状況及び経過の把握に努めている。		一人一人の暮らし方、生活環境等棟を把握しこれまでの暮らし方に近づけるよう一層努力したい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者一人一人の日常生活の過ごし方、心身の状態を把握し、本人にとって過ごしやすく居心地の良い環境作りに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画の作成にあたりケアマネを中心に担当者が関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させるように努めている。また、本人の状態にあわせ計画の変更、見直しを行っている。		入居者本意の介護計画を作り、より一層サービスの向上を目指したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しは介護計画の期間に応じて見直しを行うと共に、現状に即した新たな計画を作成し、その都度関係者と話し合いを持ち作成している。		入居者の現状を把握し変更を必要とした際にも本人の家族、関係者と話し合いながら入居者にとって最善な介護家計画を作成していきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やけあの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	日常の様子を介護記録に記入し、入居者の健康状態や精神状態の情報をスタッフ間で共有し介護計画に即して実践し、必要であれば見直しに生かしている。		記録が不十分な部分もあり日々の気付きなどもより詳しく記入するように努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所としてはグループホームのみの運営を行っている。今のところ他の利用方法の計画はない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的にボランティア、慰問などに来てもらい入居者の娯楽の質向上に努めている。市や地域、また近隣市町村でイベントがあるときには努めて出かけるようにしている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービス活用はしていない。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者をよく知るかかりつけ医師の確保が出来ている。 また、訪問看護ステーションと契約し、その看護師との連携もとれている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい医師が地域にいて、気軽に相談したり治療を受けられるような体制が整っている		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	現在三名の准看護師が勤務している。 その他に地域の訪問看護ステーションと契約し月に一度の訪問とバルーン留置している入居者に対してのバルーン交換をお願いしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者が疾病で入院した場合、早期退院に向け病院関係者と情報交換を行うようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末ケアに対しての家族との話し合いを行い、家族からは了承を得て書面も作成している。		今後かかりつけの医師との話し合いを検討する。 本人または家族との話し合いの機会を持ち続けるよう努力する。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホーム側では医療行為の出来る範囲が限られている。入居者やその家族が希望された場合、医療者側の協力体制にもよるが終末期に向けた支援を行っている。		研修会に参加し、ターミナルケアについて学んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人の昔から使っているもの、馴染みの深い物などを持ってきていただき居室内も出来るだけ今までいた部屋の通りにして工夫している。		リロケーションダメージを少なくするためにも馴染みの家具などで居室作りが出来るよう努める。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	本人の尊厳を尊重するような会話を心がけている。記録なども本人や家族の尊厳を損なうような書き方は行っていない。		尊厳を尊重する態度で対応させていただいている。記録などについても的確でないと判断した場合はその都度的確に記入するよう指導している。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	それぞれの入居者の力にあわせた説明を行い自分で自己決定が出来るように支援している。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースを大切にその日を過ごしていただいているが、職員の人員配置により希望にそぐわない場合もある。		あくまでも入居者が主役で職員は黒子になれるように努力する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	昔からの行きつけの美容室などの情報を家族から伺い、通うようにし馴染みの関係を継続している。洗濯も毎日行い清潔にさせていただいている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	本人の希望を取り入れメニューを決めている。食事の準備や後片付けも職員と共に力量に応じて行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者と買い物に行き本人の好みの物などを購入している。		ホーム内で居酒屋の雰囲気を作り入居者と職員と一緒に参加し楽しめる場面作りを検討している。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄誘導や失禁の対応はプライドを傷つけないようにさり気なく行い、入居者一人一人の排泄パターン、状態の変化を把握しオムツを出来る限り使用しない方法ととり、全ての入居者がトイレで排泄できるよう自立に向けた支援を行っている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人一人の希望を取り入れ楽しく入浴できるよう支援している。		希望によっては就寝前に入浴できるように検討したい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	疲労の程度に応じて一人一人が個別に休められるように心がけている。また、ほとんどの人が安眠されているが時に不眠を訴える人には温かい飲み物を飲んでいただくなどの配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の役割や楽しみ事があり、その中で短時間でも充実した時間がもてるように支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が出来る方には手元に持っていていただき、管理は出来ないがお金を使うことを楽しみにしている方はホーム側で預かっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	スタッフと買い物同行、または各所の行事やイベント等それぞれの希望に合わせて一緒に外出する機会をなるべく多くするようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言っていたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。			
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	公衆電話は置いていないが、希望があればいつでも自由に電話をかけることが出来る。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。			
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。			
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関に施錠しておらず家族の方や入居者が自由に出入りできるようにしている。 入居者が外出する場合は家族かスタッフが一緒に行くようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。			
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。			
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。			
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	初期対応の訓練を消防立ち会いで行っている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。			
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	今現在起こりえるリスクの可能性を考え、少しでも減らせるように職員が話し合い、それを家族や入居者に伝え相談していき、暮らしやすい環境作りを行っている。		入居者の状況、状態を常に把握することでリスク回避をはかっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		<p>感染症対策マニュアルを作り、見やすいところに掲げている。</p> <p>インフルエンザの流行期間には早期に入居者及び職員が予防接種を受け、家族が来られた際には手の消毒、また風邪を引いている場合はマスクをしてもらっている。</p> <p>ノロウイルス対策としては塩素系消毒液にて毎日掃除、除菌を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	その日のメニューの食材を使い切るように努め、調理用具等は毎日漂白除菌を行い衛生管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。			
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。			
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。			
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際には本人の使い慣れた家具を用意していただき居心地良く過ごせる環境を作るようにしている。また入居後に必要となった物は新たに持ってきていただくか、本人や家族と相談して買い足していくようにしている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室に空気清浄機を設置し、空気のおどみやにおいの対策をしている。夏期には窓を開放し自然の風を取り入れ、冬期には暖房調節を適切に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの実績に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)